

第3章 家族と幸福実感

これまでの調査結果から、家族は県民の幸福実感と密接な関連があることが明らかになってきたところです。この章では、今回調査で新たに設けた「父親の育児参画」に関する質問、「結婚」、「子ども」などの家族に関する分析を記載しています。

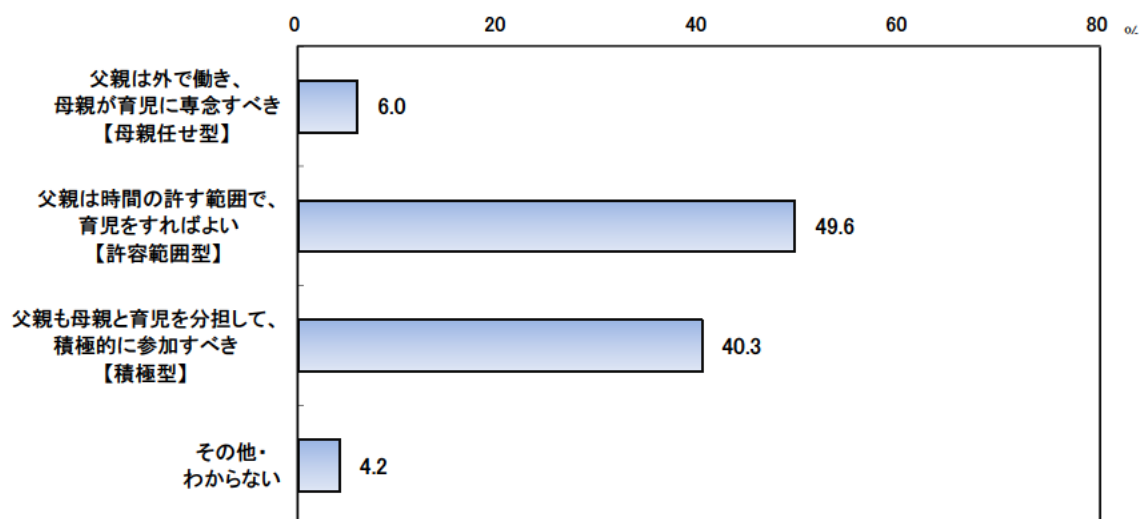
第1節 父親の育児参画

1 全体の状況

父親の育児参画についての考え方を質問したところ、「父親は時間の許す範囲内で、育児をすればよい」（以下『許容範囲型』）の割合が49.6%で最も高く、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」（以下『積極型』）が40.3%、「父親は外で働き、母親が育児に専念すべき」（以下『母親任せ型』）は6.0%となっています（図表3-1-1）。

なお、調査方法等が同一ではないことから単純な比較はできませんが、類似する全国調査では『積極型』（45.0%）と『許容範囲型』（44.9%）がほぼ同じ割合となっています（図表3-1-2）。

図表 3-1-1 父親の育児参画についての考え方(全体)



図表 3-1-2 参照した全国調査

父親の育児参加に関する世論調査（一般社団法人中央調査社が1999年から継続実施）

- ・2012年6月調査
- ・20歳以上の男女対象
- ・有効回答数1,289
- ・面接聴取法

（質問）父親が育児に参加することについて、この中からあなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。

（回答）（ ）内は結果

- ・父親は外で働き、母親が育児に専念すべき（8.5%）
- ・父親は時間の許す範囲内で、育児に参加すればよい（44.9%）
- ・父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき（45.0%）
- ・その他、わからない（1.5%）

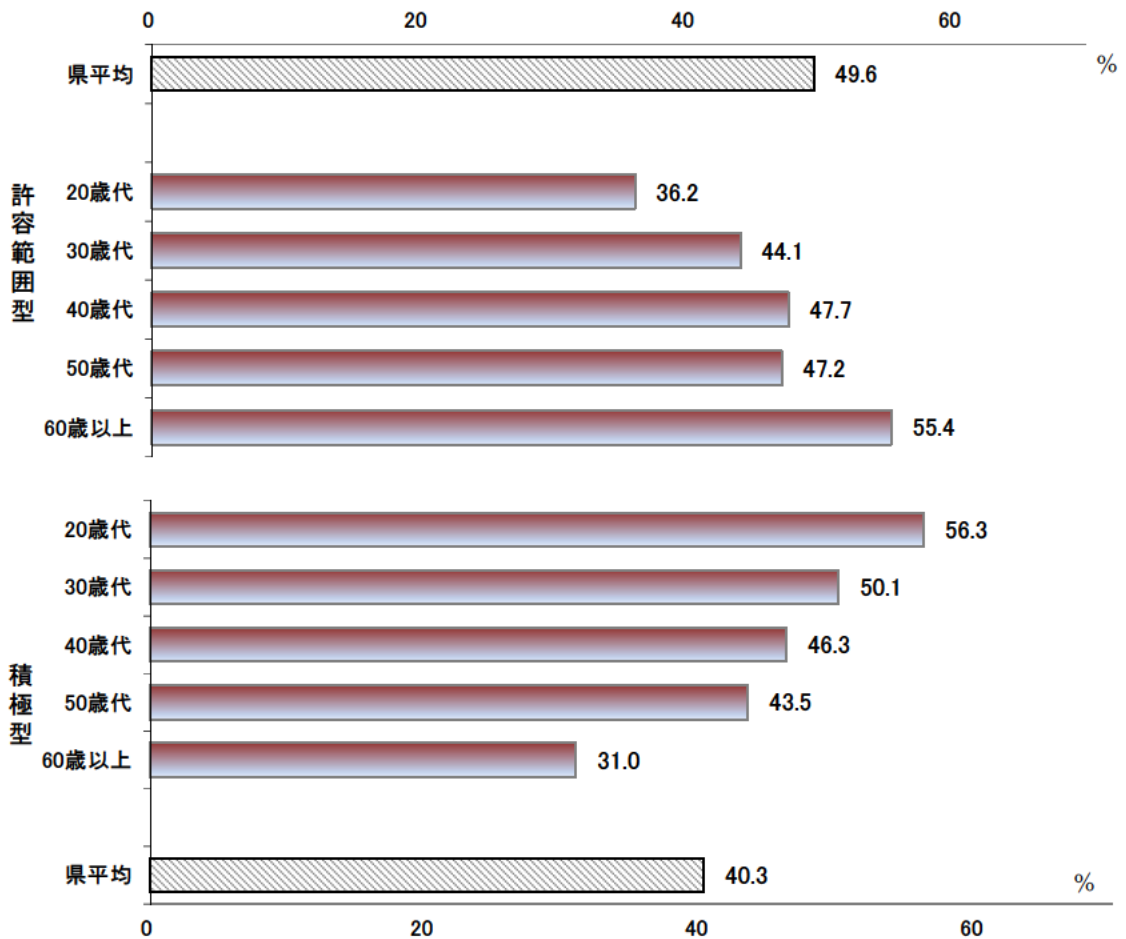
2 属性別の主な特徴

(1) 年齢別、性別の特徴

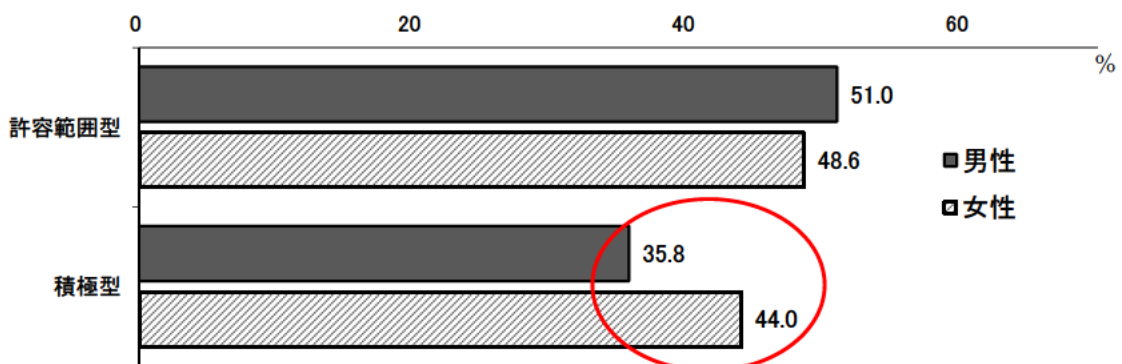
年齢別に見ると、20歳代、30歳代では「積極型」が50%を越えるなど、年齢層が低いほど「積極型」の割合が高くなる傾向となっています(図表3-1-3)。

性別に見ると、女性の「積極型」が44.0%に対し、男性は35.8%となっており、女性の方が「積極型」の割合が高くなっています(図表3-1-4)。

図表 3-1-3 父親の育児参画についての考え方(年齢別) (「許容範囲型」及び「積極型」)



図表 3-1-4 父親の育児参画についての考え方(性別) (「許容範囲型」及び「積極型」)



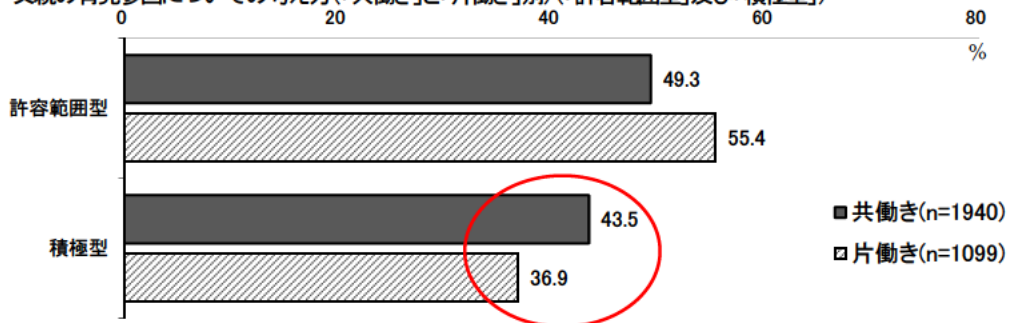
(2) 共働き世帯の意識

「共働き」と「片働き」に区分して見ると、「共働き」の方が「積極型」の割合が高くなっています(図表3-1-5)。

さらに「共働き」世帯について性別で見ると、女性は「積極型」の割合が高いのに対し、男性は「許容範囲型」の割合が高くなっています。特に、本人・配偶者が共に正規職員の場合、女性の69.0%が「積極型」であるのに対し、男性は「許容範囲型」の割合が高くなっています(図表3-1-6)。

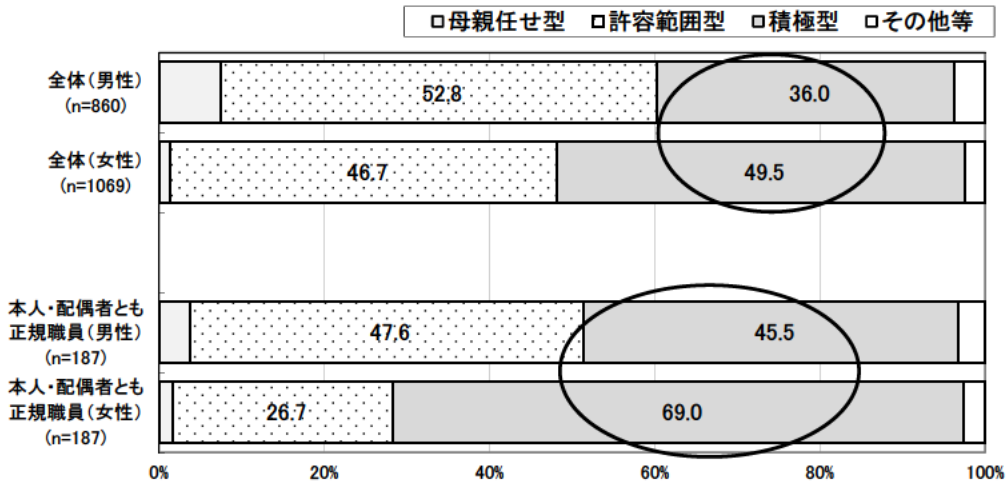
また、「片働き」世帯について性別で見ると、男女とも「許容範囲型」の割合が最も高くなっています(図表3-1-7)。

図表 3-1-5 父親の育児参画についての考え方(「共働き」と「片働き」別)(「許容範囲型」及び「積極型」)

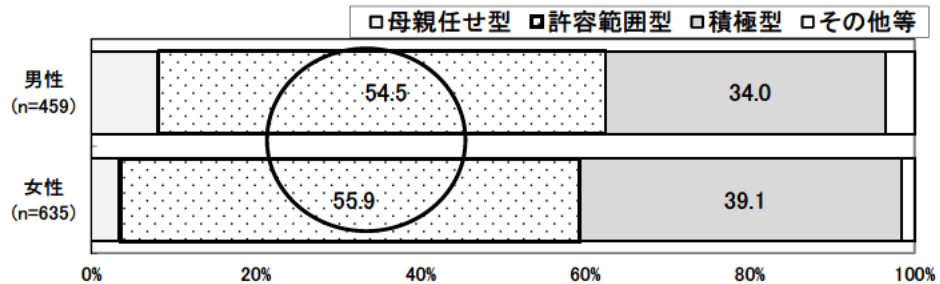


備考) 有配偶者のうち、本人及び配偶者が有業の場合に「共働き」、本人が有業で配偶者が無業、本人が無業で配偶者が有業の場合に「片働き」としている。

図表 3-1-6 父親の育児参画についての考え方(共働き世帯)(性別)



図表 3-1-7 父親の育児参画についての考え方(片働き世帯)(性別)

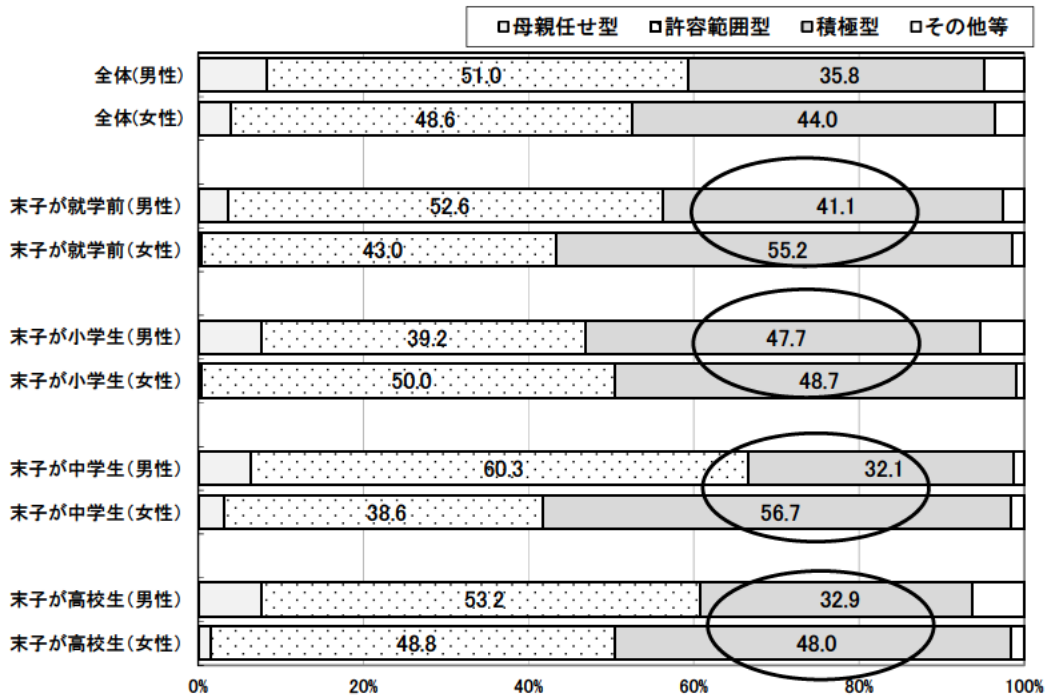


3 子育て世代の意識と現状

(1) 子育て世代の意識

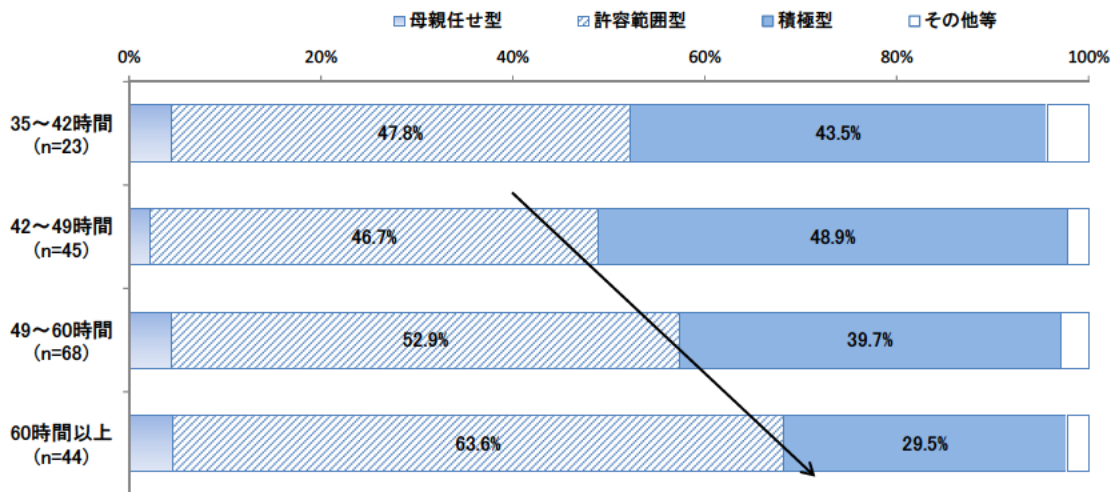
現在、高校生までの子どもがいる方について、性別で考え方をみると、どの区分においても、『積極型』の割合は女性の方が男性よりも高くなっており、性別により意識の違いが見られます（図表 3-1-8）。

図表 3-1-8 父親の育児参画についての考え方(高校生までの子どもがいる)(性別)



また、末子が就学前の男性について、父親の育児参画についての意識と見ると、就業時間が長くなると「積極型」が少なくなる傾向があります（図表 3-1-9）

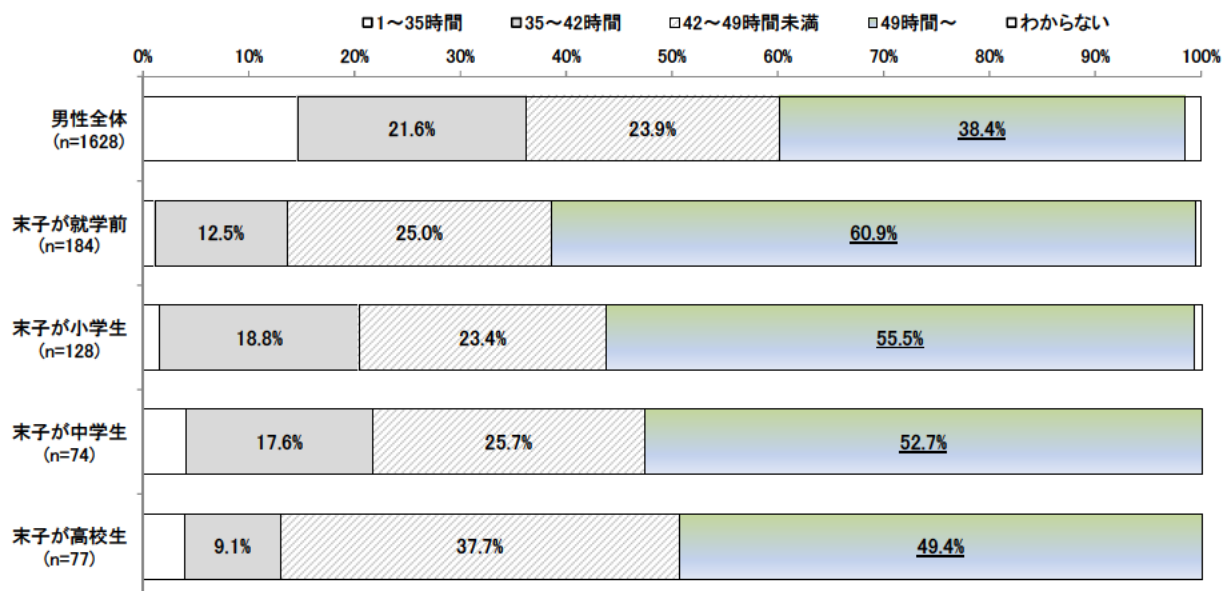
図表 3-1-9 父親の育児参画についての考え方(末子が就学前の男性)(一週間の就業時間別)



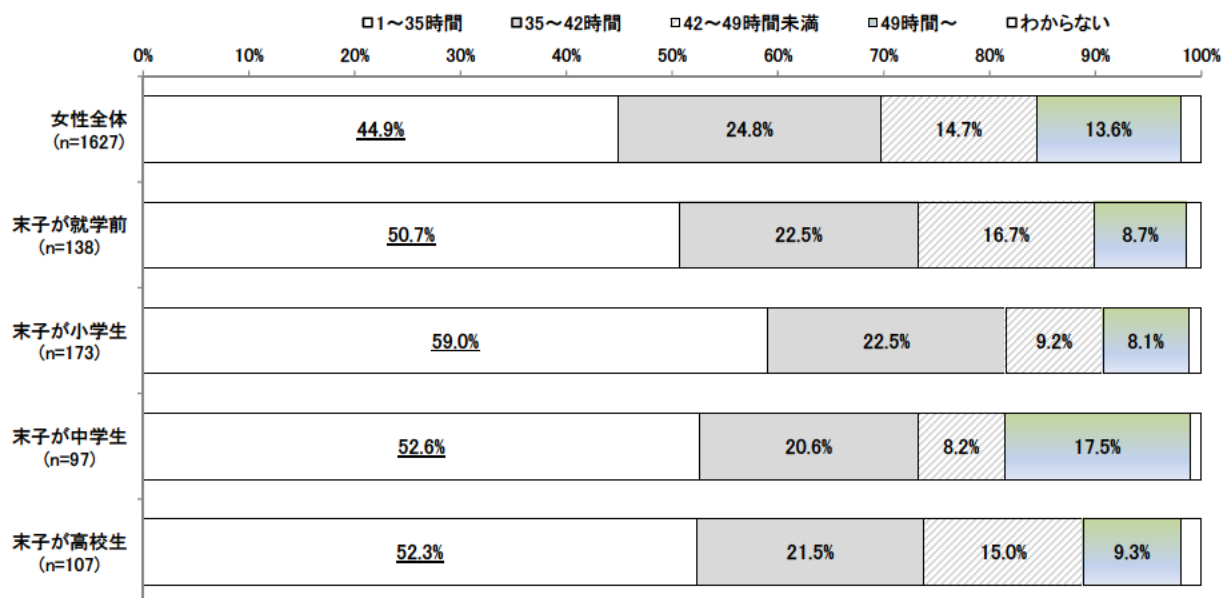
(2) 子育て世代の就業時間等

高校生までの子どもがいる方の一週間の就業時間を性別に見ると、男性は、5～6割程度が49時間以上となっており、子育て世代の男性について、長い就業時間の実態が窺えます(図表3-1-10)。一方、女性については、5～6割程度が35時間未満となっています(図表3-1-11)。

図表 3-1-10 一週間の平均就業時間(男性)(高校生までの子どもがいる)



図表 3-1-11 一週間の平均就業時間(女性)(高校生までの子どもがいる)



第2節 結婚及び子ども

1 結婚

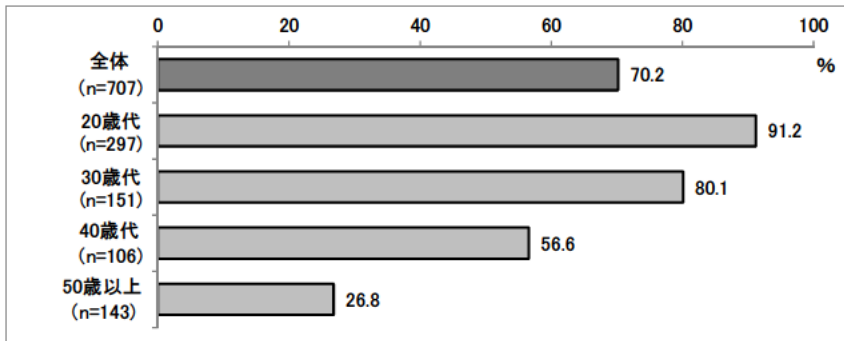
(1) 結婚に対する考え方

結婚に対する考え方を質問したところ、未婚の20歳代では「いずれ結婚するつもり」の割合が91.2%、30歳代では80.1%となっており、未婚の若年者の多くの方が結婚の意思を持っています（図表3-2-1）。

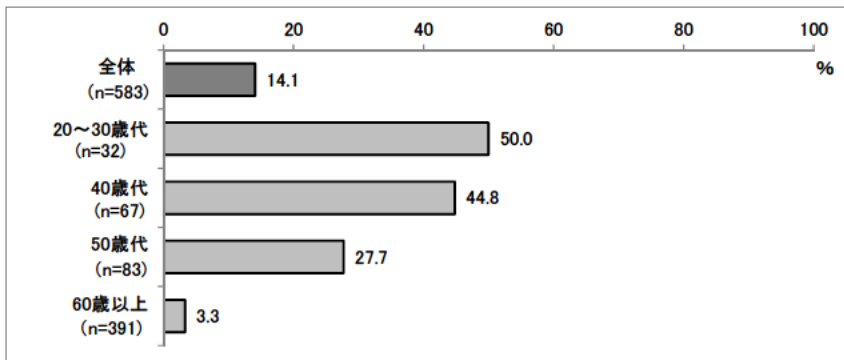
また、離別・死別の方についても、年齢層が低いほど、結婚の意思が高くなっています（図表3-2-2）。

なお、調査方法等が同一ではないことから単純な比較はできませんが、国の調査においても同様の傾向となっています（図表3-2-3）。

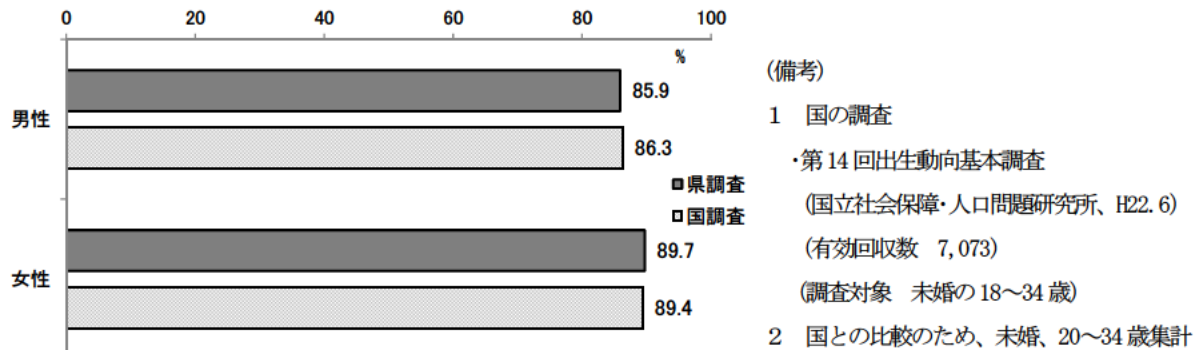
図表 3-2-1 「いずれ結婚するつもり」の回答割合(未婚)(年齢(10歳階級)別)



図表 3-2-2 「いずれ結婚するつもり」の回答割合(離別・死別)(年齢(10歳階級)別)



図表 3-2-3 「いずれ回答するつもり」の回答割合(未婚、20~34歳)(国調査との比較)



3 国調査の質問文及び選択肢は、

(問) 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは次のうちどれですか。

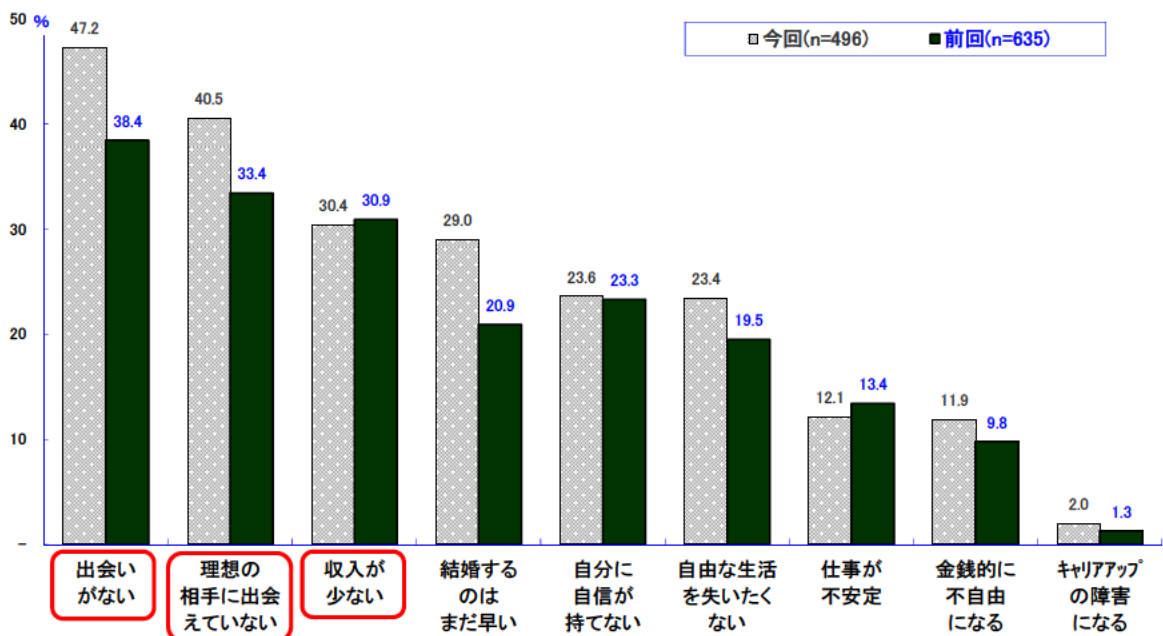
- (ア) いずれ結婚するつもり (イ) 一生結婚するつもりはない

(2) 結婚していない理由

いずれ結婚するつもりと回答した方に結婚していない理由を質問したところ、全体では、「出会いがない」(47.2%)、「理想の相手に出会えていない」(40.5%)、「収入が少ない」(30.4%)の順に割合が高くなっています。前回調査とは、質問形式等が異なることから、単純な比較はできませんが、出会いに関する理由、収入に関する理由が上位という傾向は同様です(図表3-2-4)。

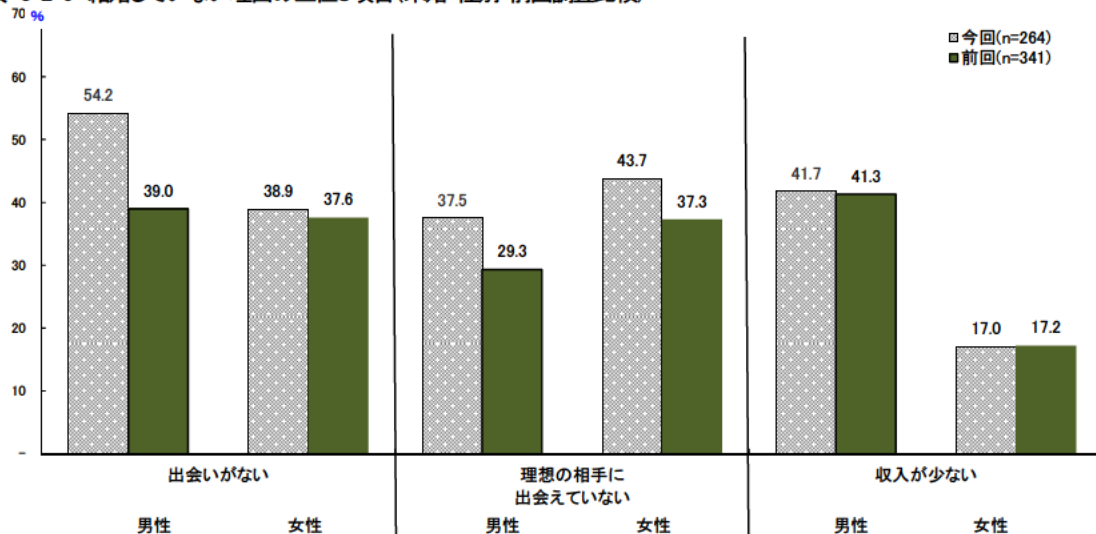
上位3項目について、性別に前回調査と比較すると、男性で出会いに関する理由の割合が高くなっています(図表3-2-5)。

図表 3-2-4 結婚していない理由(未婚・前回調査比較)



- (備考) 1 前回調査では、未婚の方全員に結婚していない理由を質問。今回調査では、「いずれ結婚するつもり」の方に結婚していない理由を質問しています。
 2 理由の選択肢については、今回調査の選択肢に加え、前回調査では「結婚する気がない」という選択肢を設けています。

図表 3-2-5 結婚していない理由の上位3項目(未婚・性別・前回調査比較)



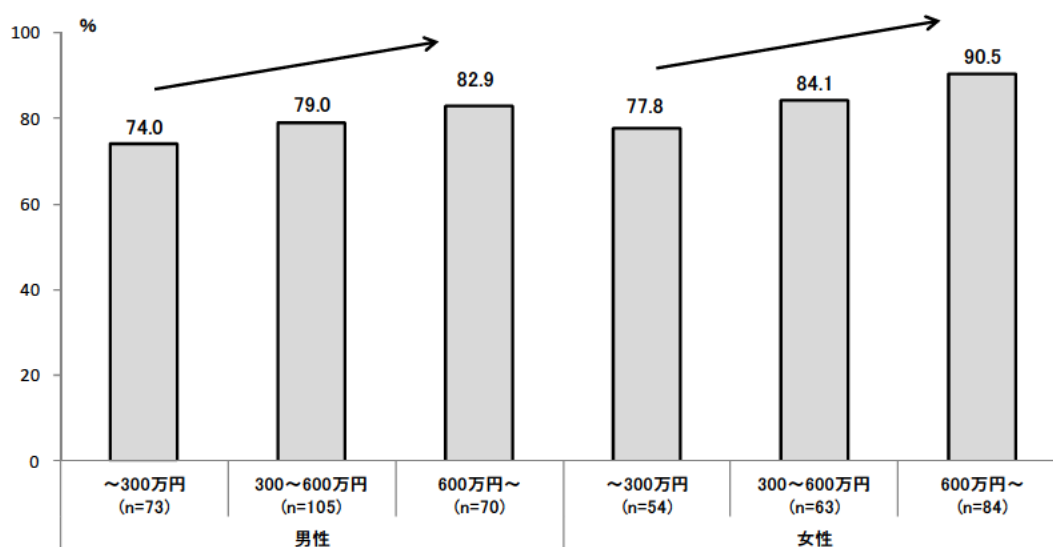
(3) 世帯年収との関係

20～40 歳代で未婚の方の「いずれ結婚するつもり」の回答割合を、性・世帯収入別に見ると、男女とも世帯年収が増えるほど「いずれ結婚するつもり」の割合が高くなっています(図表3-2-6)。

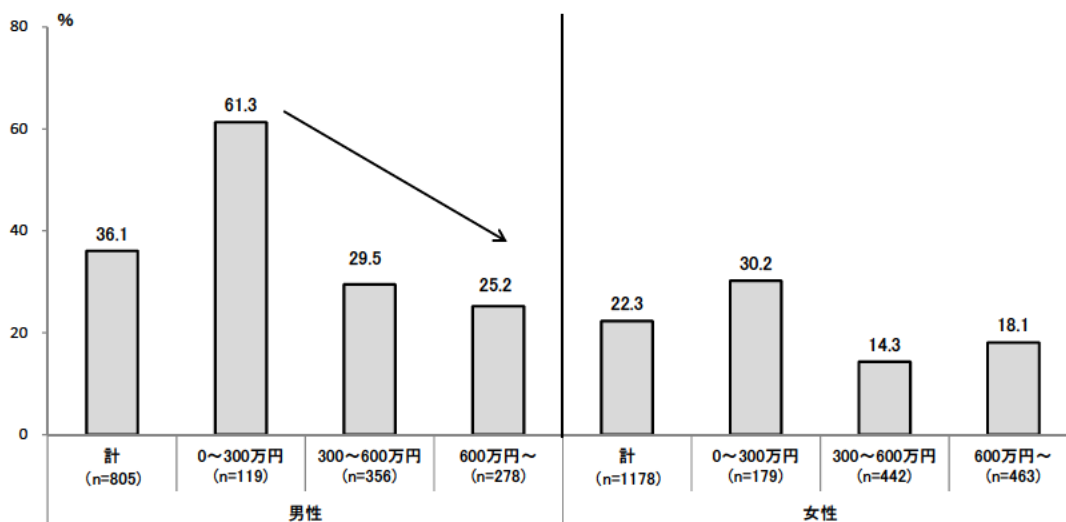
また、20～40 歳代で未婚の割合を性・世帯収入別に見ると、世帯収入が低いと未婚の割合が高い傾向にあり、男性の300万円未満の層では未婚が6割以上になっています(図表3-2-7)。

これらから、経済的な要素が結婚に対する意思、あるいは結婚そのものに影響している可能性が窺えます。

図表 3-2-6 「いずれ結婚するつもり」の回答割合(未婚、20～40 歳代)(性・世帯収入別)



図表 3-2-7 未婚の割合(20～40 歳代)(性・世帯収入別)

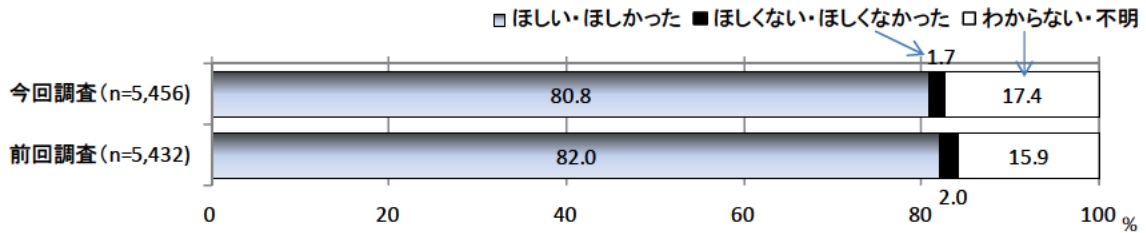


2 子ども

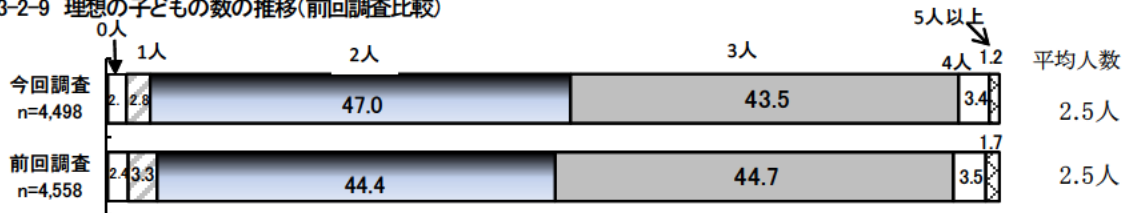
(1) 理想の子どもの数

前回調査に引き続き、理想の子どもの数を質問したところ、「子どもがほしい・ほしかった」の回答割合が80.8%、平均人数が2.5人となり、前回調査とほぼ同様の結果でした(図表3-2-8、3-2-9)。

図表 3-2-8 子どもを希望する割合(前回調査比較)



図表 3-2-9 理想の子どもの数の推移(前回調査比較)

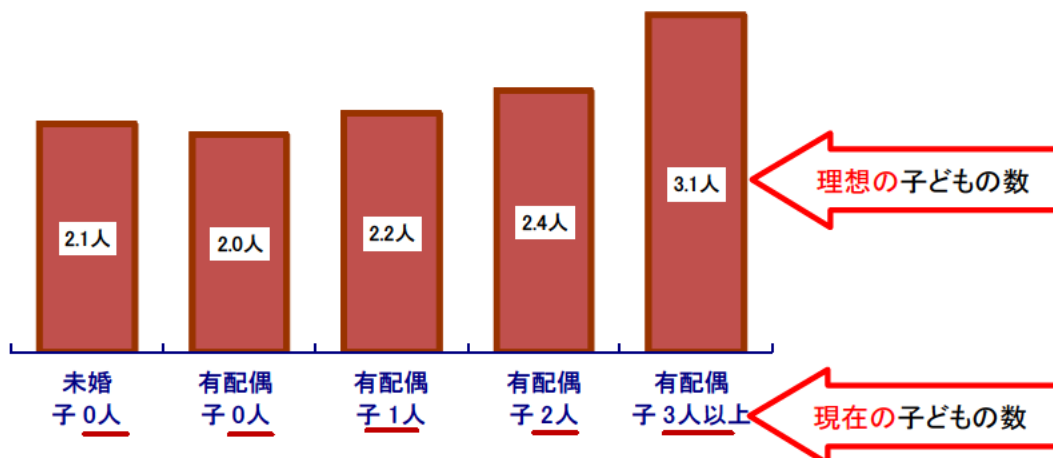


※理想の子どもの人数が明記された回答、及び「ほしくない」と回答した方を対象に割合を算出しています。
 ※平均値の算出にあたっては、「ほしくない」の回答を「0人」としています。

(2) 理想の子どもの数と現実

20歳代から40歳代を対象に実際の子どもの数と理想の子どもの数の関係を見たところ、理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層は2.1人、有配偶で子どもがいない層は2.0人、有配偶で子ども1人の層は2.2人、有配偶で子ども2人の層は2.4人、有配偶で子ども3人以上の層は3.1人で、現在の子どもの数は理想の数より少なく、前回と同様の結果となっています(図表3-2-10)。

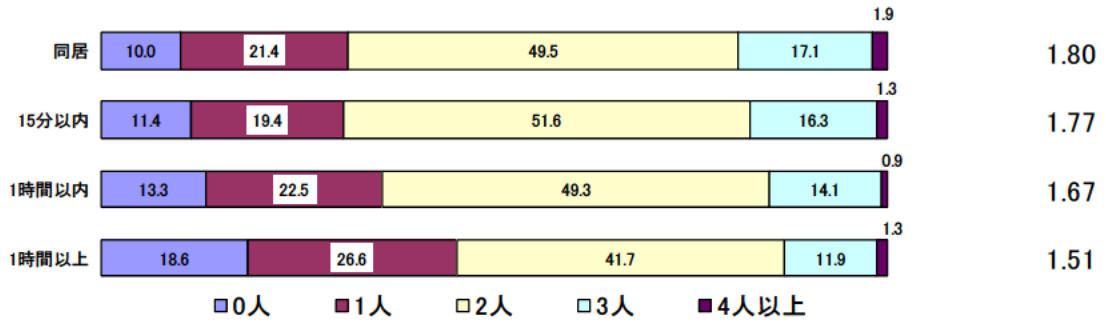
図表 3-2-10 子ども数の理想と現実(20~40歳代)(今回調査)



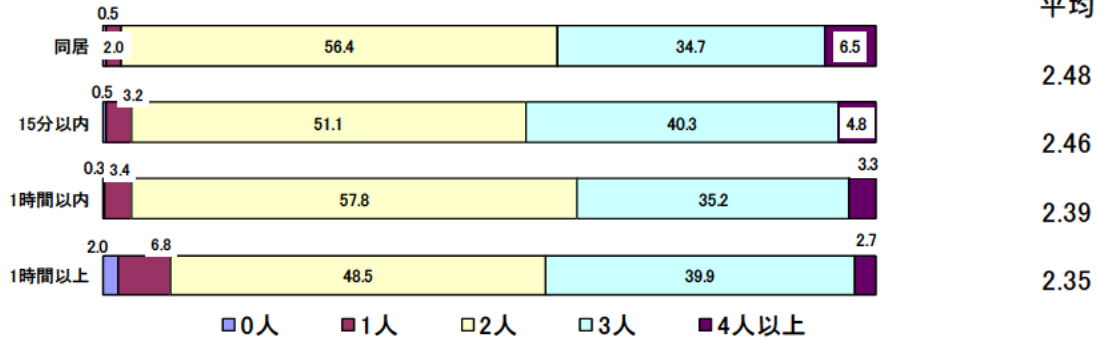
(3) 親の住む場所と子どもの数との関係

20～40歳代の有配偶を対象に、自分の親、配偶者の親との住まいの距離と実際の子どもの人数、理想の子どもの数を見たところ、実際の子どもの人数も理想の子どもの数も、親の住まいとの距離が近いほど数が増える傾向となっています(図表3-2-11～3-2-14)。

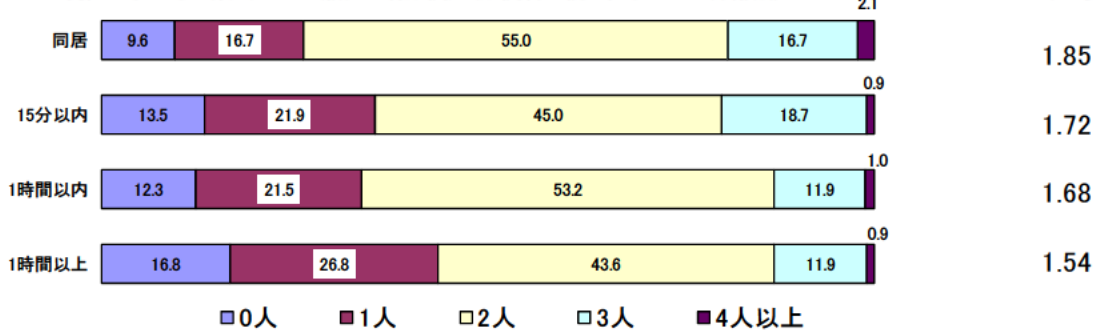
図表 3-2-11 現在の子どもの数(20～40歳代の有配偶)(自分の親の住まいとの距離別)



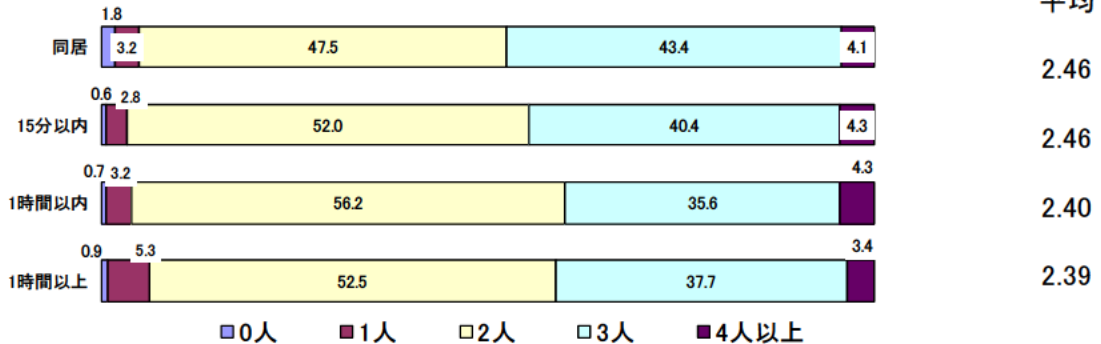
図表 3-2-12 理想の子どもの数(20～40歳代の有配偶)(自分の親の住まいとの距離別)



図表 3-2-13 現在の子どもの数(20～40歳代の有配偶)(配偶者の親の住まいとの距離別)



図表 3-2-14 理想の子どもの数(20～40歳代の有配偶)(配偶者の親の住まいとの距離別)

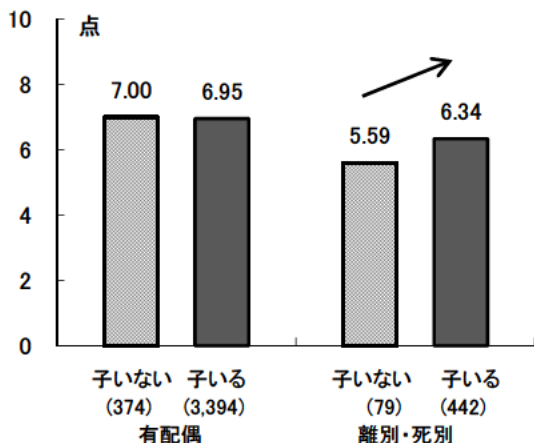


(3) 子どもを持つことと幸福感の関係

子どもの有無・配偶関係別に幸福感を見ると、有配偶ではあまり差はありませんが、離別・死別については、子どものいる層の方がいない層よりも幸福感が高くなっています(図表3-2-15)。

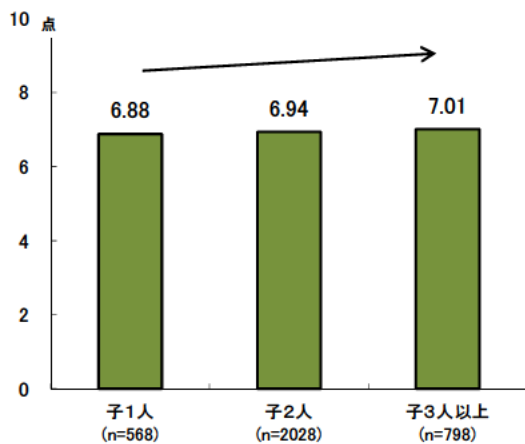
また、有配偶を対象に子どもの人数別に幸福感を見ると、子どもの人数が増えると幸福感が高くなる傾向があり(図表3-2-16)、末子の年齢別にみると、就学前の子どもを持つ層の幸福感が特に高くなっています(図表3-2-17)。

図表 3-2-15 幸福感の平均値(配偶関係・子どもの有無別)



(備考) 各区分の下の数字はサンプル数。未婚についてはサンプル数が少ないため、省略。

図表 3-2-16 幸福感の平均値(有配偶)(子どもの人数別)



図表 3-2-17 幸福感の平均値(有配偶)(末子の年齢別)

